

令和元年度 第2回湯河原町総合教育会議 会議録

日 時 令和2年2月5日（水）午前10時00分～11時20分

場 所 湯河原町防災コミュニティセンター2階206会議室

出席者（委員）町長、副町長、教育長、小松委員、貴田委員、西山委員、山田委員
（事務局）地域政策課長、企画係長

（教育委員会事務局）参事兼学校教育課長、学校教育課教育指導担当課長、湯河
原中学校長、学校教育課副課長、社会教育課長、図書館
長、美術館長

傍聴者 3名

1 開 会

2 町長あいさつ

おはようございます。大変お忙しい中、委員各位には第2回総合教育会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

日頃より町政運営にご協力いただき、特に教育行政ということになりますが、それ以外にも全般的な町の運営につきましてもご協力をいただいておりますことを重ねて御礼申し上げます。

本日は、次第にありますように、教育大綱の改定をはじめとするいくつかの案件及び報告がございます。皆さまそれぞれのお立場からご意見を賜りながら改定について最終的に方向性を決めていただき、確定をしていきたいと思っておりますので、積極的なご意見をいただけますようお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

3 教育長あいさつ

おはようございます。本日は、令和元年度第2回総合教育会議のご開催、誠にありがとうございます。

早いもので2月も2週目となりました。各学校では進路、卒業式、年度末、さらには間近に迫っております小学校での新学習指導要領の実施の準備などで大変忙しい時期を過ごしております。また、社会教育の面では年度末に恒例となっております、オレンジマラソン大会ですが、ご案内のとおり今回は30回の記念大会となっております。この開催に向けて準備を進めているところでございます。教育委員会といたしましても、教育大綱の理念の基で各種事業を町長部局との連携の基で実施しております。

本日は富田町長の方から新たな教育大綱についてお示しいただけるもので、教育委員会といたしましても町長のお考えになる教育施策の基本的な方向性を共有するとともに、委員の立場からご意見を述べさせていただきたいと思っております。

また、教育委員会からは課題となっております4件の事項についてご報告するとともに、ご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

4 案 件

(1) 教育大綱の改定（案）について…資料No.1

○資料No.1を説明（地域政策課）

○質疑

（小松委員）

…資料No.1の6ページの「グローバル社会への対応」に湯河原の子どもたちの国際感覚の醸成を図るということが記されているのですが、町内には外国籍や外国につながるのある児童生徒も増えてきているので、そういった子どもたちへの日本語を含めた教育も考えなければならないと思うので、それを追加していただきたいと思います。

（地域政策課長）

…教育の面で追加できればと考えておりますので、教育委員会と協議しながら追加させていただきます。

（町長）

…いまのご意見については、基本目標3が良いのか、それとも教育現場の方なのか、この辺は少し整理をさせていただきます。担当と打合せをする中でも、湯河原にも今後さらにそういった方々が地域や学校の中に児童生徒として入ってくると思いますので、神奈川県内では大和市さんがかなり昔から一番歴史があるので、学校現場や地域の関わり方の情報をしっかり集めてみたらどうかという話はしたところです。

（学校教育課教育指導担当課長）

…大和市の状況ですが、県営団地があり、だいぶ前からその団地を中心に外国人が集まっているという地域的な特徴があります。現在その地域では小学校で30人を超える児童、中学校でも30人を超える生徒が集まって国際教室を設置されているということです。県費負担の教職員の加配については、10人に1人という規定があるので、1クラスに3人ずつ加配されて運営されているということです。

(教育長)

…湯河原ではそこまでの人数はいませんが、今後そういう状況になれば対応していかなければならないと思っています。

(町長)

…大和市のいちょう団地という団地ですが、いまから20年近く前にベトナム人だけでなく他の国籍方々も含め住居し始めたようです。どういった背景で外国人が集まってきたのかわかりませんので、想像になってしまうのですが、川を一本挟むと反対側が横浜で、そこに県営団地という受け皿があってそうなったのかなと思っています。地域コミュニティも国籍など色々なものを越えながら形成されてきていますので、そういった経験のある地域の情報は必要だと思います。湯河原でもそういう方向に進んでいくと思いますので、大綱の中でうまく表現していただければと思います。

(西山委員)

…資料No.1の5ページの「不登校対策」の最後の文章の「生徒や保護者に対し、粘り強く相談・指導にあたり」という部分ですが、「指導」という言葉が気になっています。学校現場にいたときには、「指導」という言葉の中には単に教えるだけでなく、様々な問題に対して適当な助言も与えるということで実際には「支援」という意味合いを含めて「指導」という言葉を使用してきました。教育支援教室という名称も使っていますので、できれば「支援」にさせていただきたいと思います。

もうひとつが、子どもたちや保護者の方もこの問題については非常に気にしていますので、学校に行くだけがすべてではないという認識で先生方も指導してくださっていると思います。そのため、できれば「学校復帰につなげる」という部分は、少し検討していただきたいと思います。

ただ、このような提案をしながらも、こういった組織で子どもたちや保護者をバックアップする以上は、公教育、義務教育ということを見ると、子どもたちの目標であると同時に、指導する担当者や学校現場の思いとして、なんとかまた学校でみんなに囲まれて生活ができればいいかなという思いも入っているのではないかとと思います。

ですので、強引につなげるという意味ではないですが、その辺りのことも含めた形で学校現場への復帰について考えていきたいと思っています。

(教育長)

…確かに最近はそのような傾向にあり、国も今まで不登校は問題行動等の中に含めていたのですが、最近では問題行動ではないということで別枠として考えています。そういったことから、西山委員がおっしゃるように学

校だけがすべてではないという新たな考え方ができておりますので、教育委員会の中でもさらに進めていく必要があると思います。その関係で適応指導教室も教育支援教室と名称を変えましたので、新たな段階に入ったのではないかなと感じております。

(町長)

…ご意見としては「指導」という言葉を「支援」という言葉に置き換えるということで、事務局には検討していただきたいと思います。確かに、支援教育アドバイザーも「支援」という言葉を使っていますので、「指導」と「支援」の言葉の概念から方向性を整理していただきたいと思います。

(貴田委員)

…同じく資料No.1の5ページの「不登校対策」について、現状として不登校になった子どもはもう一度学校に通うということができていない状況です。不登校になってしまう前に、なるべく不登校にならないような未然予防が必要ではないかと思います。ですので、未然予防という言葉を入れていただければと思います。

(地域政策課企画係長)

…この場で「記載します」との回答はできませんが、教育委員会と検討してまた委員の皆さまへお示しさせていただきます。

(山田委員)

…資料No.1の6ページの基本目標3の「グローバル社会への対応」の2つ目の記載に、「高度情報化社会の進展により、ICTを活用して」とありますが、ここに位置づけられていることに少し違和感があります。

この後の議題にもあるGIGAスクールも動き出すので、ICTを活用した学びは、ICTを活用するからこそ不登校の子どもたちも家庭で個別の学びができると思います。今回の段階で大綱へ記載するべきかということもあると思いますが、基本目標3の中で「グローバル社会への対応」とは別の位置づけで記載するのか、別の基本目標の中で「ICTを活用した子どもたちの新しい学びのあり方」のような記載をしても良いのかなと思いました。

(教育長)

…山田委員がご指摘されたことは基本目標1にも共通する内容だと思いますし、もっともなご意見だと思います。別の項目とする方が良いと私も思います。

(地域政策課長)

…ICTにつきまして、基本目標1に入れたら良いのか、基本目標3の中

で別立てした方が良いのか、検討させていただきます。

(町長)

…ICTのように違う方法で教育の機会を与えるという現実もありますので、その辺りもしっかり大綱の中へ入れていく必要があると思います。

いままで頂いたご意見と併せて整理をさせていただいて、再度委員の皆さまへお返しさせていただいて、最終的に結論を出していきたいと思えます。

(教育長)

…資料No.1の2ページに目標が記載されています。これは町の総合計画である「ゆがわら2011プラン」を踏襲しているものですが、総合計画の改定がありますので、改定の内容次第でこの目標も変更になると思います。その点についても、今後総合教育会議の中でお話していく必要があるのかなと思います。

(地域政策課長)

…現在、新たな総合計画の策定作業が始まっており、令和2年度に策定する予定であります。そのため、新たな総合計画が策定された段階で、教育大綱についても改めて見直しをしてまいりたいと考えております。

(町長)

…他の作業との関係で見直しもあるようですが、本質的な考え方としては変わることはないと思います。この言葉がそのまま残るのかどうかもまだはっきりしておりませんが、そのようなことがあるということを知りたくて委員の皆さまにも共通の認識としていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

5 報 告

(1) G I G Aスクール構想について…資料No.2

○資料No.2を説明（学校教育課）

○質疑

(町長)

…基本は整備を進めるという方向でいます。資料No.2の5ページで財政面のお話をすると、町としても3月補正で計上させていただいてあります。令和元年度に整備を進めていくと国からの財政補助が有利であるので、実質的には4月以降になりますが、合理的な方法で予算措置をしていこうと思っております。

(教育長)

…この構想が始まるにあたり、OECD（経済協力開発機構）のPISA（学習到達度調査）で日本は読解力が15位と後退しました。その一つの分析として、テストがコンピューターを使ったテストであり、日本は少し遅れてしまっているので、ICTの環境整備をやらなければならないという認識が出てきたのだと思います。

資料No.2の12ページに、今後ICT環境の整備を進めることでどういったメリットあるのかということが記載されています。その中で「個別に最適で効果的な学びや支援」ができるということは、いままで公教育では習熟度別の学習が難しかった部分があるのですが、それがGIGAスクールによって解決できるのではないかと国も考えています。

ひとつ課題になっていることとして、機械ですので、5年経つと古くなってしまいます。それを更新するときこのような手厚い助成が受けられるのか、ということをお県や市町村が課題として取り上げていて、国に要望もしています。

(町長)

…教育だけでなく、5Gのインフラが整備され本格的に動き出していて、教育以外の分野においても地理的、距離的不利はなくなると思います。

このGIGAスクールは今後も継続していくことになると思いますので、ハード面の整備を持続していくのは行政間としても、政治の分野でも要望していくことはすぐに始めていくべきだと思います。

(山田委員)

…今回、確実にこの流れに乗って国から予算をもらうべきだと思うのですが、それと並行して、同時に少しスピードを持って検討したほうが良いと思う点はいくつかあります。

まず、Wi-Fiを学校の中に整備していくという問題。また、整備するタブレットの端末がWi-Fiだけのものなのか、それともデータで使えてどこへでも持ち歩けるようにするのか、という議論です。それはさきほど教育長がお話されていた「個別に最適で効果的な学びや支援」という部分で、不登校の子どもが教育支援教室で様々な学年の子どもがいる中で自分の学びをしっかりとできること、学習が追いつけない子どもは自宅にタブレットを持ち帰って学習することができる、というところにつながると思います。ただし、自宅へインターネット線が引いてある・ないというところで、教育の格差が生まれてしまう可能性もあります。

また、我々も携帯を3～4年で変えたりする中で、今回の予算で買った

タブレットがずっと使えるわけではないので、それをどうするのか。それと、これから様々な企業がGIGAスクールをつかったプランを出すと思います。レンタルでデータプラン付きの商品も出ると言われています。そうするとレンタルになるので、3～4年経った時点で必ず新しいものに変わっていきます。そのときにその予算をふるさと納税とからめながらできるととても良いのかなと思います。

(教育長)

…現在、国の方で示しているものでは、とりあえずはLAN環境を整備するための要望が出ていて、端末に関しては後からになります。こういった端末としていくのかは、県で一括調達するという手法も言われている中ではっきりしたものはまだ示されていません。いずれにしても、まずは校内LANを整備していこうというのが国の考え方です。セルラー方式だとランニングコストが高いのではないかという考え方があります。そのため、セルラー方式だとどこでもできるのですが、ランニングコストについて国は補助しないので、自前でやりなさいということになっています。

(町長)

…ふるさと納税という話もありましたが、企業版ふるさと納税もこれから勉強していかなくてはならないと思います。理想を言うてはいけないかもしれませんが、企業側のお金も獲得できる可能性もあるかもしれません。

(山田委員)

…GIGAスクールに関わっている方々とお話する機会があつてそこでお話をしていたのは、今回でLANを整備することなのですが、一番良いのはセルラーモデルで1人の端末につき2GBに制限すると、そんなに価格もかからないそうです。Wi-FiのあるところではWi-Fiにつないで、ないところではデータを使うということにすれば、学校内ではWi-Fiがあるのでデータを使う必要がなく、町内に調べ学習に行くときや自宅学習だけであれば、そこまでデータ容量は必要ないので、そこまでランニングコストはかからないのではないかということでした。そこで端末がWi-Fi専用だと使えないので、そこまでも含めて町の予算を用意しておくのと良いとのことでした。

(町長)

…最終的には予算の話になるのですが、子どもたちみんなが上手に使うことができれば良いのですが、全員が上手に使えるとも限らないので、どのようにしていくかしっかり整理していく必要があると思います。それによって最終的にランニングコストがどの程度かかるのかという数字が出

てくると思います。

(教育長)

…GIGAスクールは、学校が端末をどのように使えるかというところも課題としてあると思います。一気に進んできて、先生方も戸惑いがあったと思いますので、支援員が必要になってくるのではないかと思います。

(貴田委員)

…他の委員さんもおっしゃるとおり、大きな問題としてはランニングコストの問題、それと、上手に教育現場で活かしていけるのか、という2つのだと思います。それについて、今後さらに話し合いが必要だと思います。

(小松委員)

…教育において地域格差が生まれてしまうのは非常に問題であると思いますので、町長には国に対して義務教育は全国どこにいても同じレベルの教育が受けられるということを提言していただきたいと思います。

(町長)

…全国町村会等を通じて意見を伝えていかなければならないと思います。これは大きく変化していく節目のことだと思いますので、いま出た意見も含めて、何かの折には必ず伝えたいと思います。

(2) 教員の働き方改革について…資料No.3

○資料No.3を説明(学校教育課)

○質疑

(教育長)

…少し補足させていただきますと、資料No.3の2ページに「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」というものがありますが、1月に入り法律改正と共に法的根拠のある指針に格上げになりました。併せて、資料No.3-2で説明がありましたように、進捗状況につきましても各市町村レベルの細かい進捗状況を公表して促すということで、国の方も力を入れています。ただ、私個人としては、教職員の定数を少し上げていただくのが一番良いと思うのですが、それは財政的な問題もあり、前に進まない状況です。

(貴田委員)

…実際の学校現場の先生方にもお伺いさせていただきたいのですが、現状として先生方がお忙しいという状況はそのとおりだと思います。そんな中で、資料No.3-2の5ページにある「効果が大きいと考えられる取組ベスト10」なのですが、実際のところどうなのでしょう。私が考える中では、

例えば「学校閉庁日の設定」というのは現場の先生方にとってはそんなに効果がないのではないかと考えています。また「外部人材の参画」ですが、人材が増えることは良いのですが、それを管理されるのは先生方なので負担が大きくなるのではないかと考えています。

(湯河原中学校長)

…仕事の量を減らすということは、引き算をすることになります。この取組の中で引き算できるものが有効になるということなのですが、なかなかそれに値するものはないです。それよりも、外国人の子どもが来ることになると対応しなければならない職員が増えます。また、ICTを導入するとしても、今の職員は誰一人そのような教育をしたことがないので、その学習の方法を勉強しなければならない状況になるので、増えるばかりで減るはずがありません。

そうすると、考えられるのは教育長がおっしゃったように人を増やして一人の負担を減らすことが一番の有効であり、それしか方法がないと思っています。夜遅くまで残っている職員に早く帰れと言いますが、ほとんどの職員が早く帰りたいと思っているけれど終わらなくてやっている状況です。無駄な時間を少しでも減らすということはほぼ終わりました。

貴田委員のご質問に答えるのであれば、閉庁日があれば部活もやることはできないのでその分だけ部活の時間が減り、子どもたちにとってはわかりませんが、職員はその分時間が得られるので有効でない、ということでもないと思います。また、外部の方に参画いただくのは、最初の手間は必要ですが、うまく流れていけば何年か後には職員の負担が減ることにつながると思うので、やらないよりは外部のサポートスタッフを入れていただけるとすれば現場としてはありがたいと思います。

(教育長)

…いま校長は現状をお話されたのだと思いますけれども、この取組リストは国が列記した内容なのですが、これ以外にもできることを少しずつやると同時に、教職員の意識も変えていかないと進まないのではないかと考えています。

(町長)

…学校現場だけでなく、5ページに記載されている「保護者や地域・社会に対する働き方改革への理解や協力を求める」という取組みを正しく伝えていく必要もあると思います。

(西山委員)

…新しいシステムや人材を取り入れて新たな教育活動をするのは、現場

ではうまく軌道に乗せるまでにかかなりの労力や時間がかかります。そういった意味で、「労力がかかるなら大変だけれどもいまのままやっ払いこう」という流れできているのではないかと思います。さきほどの説明で湯河原町は教員の働き方改革で概ね色々な取り組みをしているということでしたが、閉庁日については検討という状況です。こういった部分を町部局が後押しをしてあげないと、現場はなかなか動けないと思います。現場の急している部分について、積極的な働きかけをしてあげる必要があると思っています。

(町長)

…効果が大きいと考えられる取組みということで、いくつかご意見もあった学校の閉庁日という思い切った取組みも含めて、現場と打合せしていただいて、研究していく必要があると思います。また、行政としてはそれに対する予算上のフォローをしていかなければならないと思います。

(教育長)

…教育委員会の中でもご議論いただく予定ですが、教職員だけ、教育委員会だけではなく、保護者や地域の方のご理解をいただき、十分留意しながら導入に向けて検討していきたいと思っています。

(小松委員)

…人員的余裕がないということで、実際に生徒が不利益をこうむっている事例をお話させていただきます。部活ではなく、体操を習っているお子さんがいて、大会に出場するには学校の許可が必要なのですが許可が下りなかったそうです。その理由が、その大会に参加するには学校の先生が付き添わなければならないというルールがあって、付き添える教員がいないために数少ない大会に出場できなかったということでもとても残念がっていました。そこで、大会のルールも、保護者が必ず責任を持ちますというような署名を取らせば、保護者の付き添いでも参加が可能にできないのかなと思いました。

(湯河原中学校長)

…そのお話とリンクしないかもしれませんが、湯河原中学校の場合には夏の大会だけ出ると学校としてルールをつくって、保護者にもお伝えしているので、他の大会というのが当てはまらなかったのだと思います。他の学校がやっている事例があればですが、県内でもそういう扱いをしているところはほぼなく、ほとんどが夏の大会にだけ顧問が直接行くことになっています。先ほどお話があったように、子どもが不利益にならないように、顧問がダメな場合は担任も行っていますので、そのせいで出られなかった

という生徒はいないと思います。

(町長)

…難しいデリケートな要素がたくさん含まれていますが、方向としては働き方改革を進めていかなければならないと思います。

(3) 湯河原中学校給食検討委員会の状況について…資料No.4

○資料No.4を説明(学校教育課)

○質疑

(町長)

…少し補足させていただくと、自校方式に限定してアンケート調査を始めたのは、前はデリバリー方式という選択肢もあったのですが、自校方式でないと、というご意見もあり、その時の保護者の方や生徒さんはいらっしゃいませんけれど、その考え方を継続的にして、今回は自校方式ということで絞り込んだアンケートを実施しています。

(教育長)

…結果が出ましたらお知らせしますが、建設の方の検討も進めていますので、今後ご意見をいただければと思います。

(町長)

…アンケートの集計はいつ頃になりますか。

(参事兼学校教育課長)

…できるだけ早くやらせていただきます。

(4) 外国籍児童・生徒の就学について

※案件(1)にて小松委員より発言があったため、説明なし

6 その他

(町長)

…最後にその他ですが、皆様からございますでしょうか。無いようでしたら、以上となります。

7 閉会